

証券市場新聞

1 第138号

日経平均株価
2万2697円88銭
▼66円80銭(前日比)
TOPIX
1744.98
▼4.61(前日比)

2018
7/23
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心齋橋ビル6F
TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861
marketpress.jp



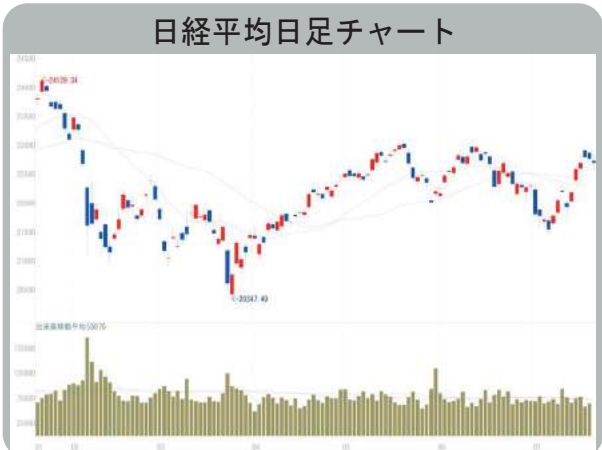
3月期企業1Q決算始る

112円台へ円安進み上振れ期待



輸出系企業は円安が追い風になる？

輸出系企業は円安が追い風になる？
1) 4) 電 表 の て 1) ト 期 状
ト) 期) 産 予 が の 注 的 決 況
は) 初) (6 定 の 2 目 的 算 下
1) 想) 5 日 の 5 され 存 企 3
ド) 定) 9 本 発 して 業 の 月
レ) 定) 同 日 行 して 業 の 月
社) 定) 社 本 行 して 業 の 月
信) 越) 業) 7) (6
越) 化) 越) 7) (6
化) 学) 学) 4) 8
学) 工) 工) 0) 5



第1四半期(4月)はトランプ大統領による通商政策が世界的に波乱を巻き起こし、米中貿易戦争の激化から東京市場も大幅に調整その場面も見られた。その半面、為替にっ

受という強弱感対立念と円安メリット享

7月第2週の週末に一気に112円台後半にまで円安が進

展、輸出企業にとつては貿易戦争への懸念と円安メリット享

受という強弱感対立念と円安メリット享

1000円で、現在の為替動向を考慮すると大幅な上ブレ要因

しかも、車載向けは電動パワステ用以外にも様々な分野へ採用が増えており、貿易戦争という心理的不安は考慮する必要がある。いだろうか。25日にはアドバンテスト(6805)や信越化学工業(4063)も

まずは日本電産に注目

第1四半期発表は2月期決算企業の発表が一巡し、いよいよ3月期決算企業の発表がスタートする。2月期決算企業については小売セクターが中心だったが、3月期決算企業についてはハイテクや自動車など輸出系が多いことから、足元、1ドル112円台まで進んだ円安基調と米中貿易戦争の影響で企業が今後、どのような見通しをたててくるかが最大の関心事となる。先行き上ブレ期待が高まれば、業績面での割安感が高まり、株価も上昇基調となること期待できよう。

は300mmシリコンウェハに關して長期契約を締結しており、製品値上げの動向次第では上ブレが期待される。その先は31日に任天堂(7974)とソニー(6758)が控える。任天堂も為替メリットを享受するが、ニンテンドースイッチ普及へ向けてのソフト戦略が注目される。8月に入れば3日のトヨタ自動車(7203)は米国の動向を業界全般の今後の動向を占ううえで注視されよう。

今週の動意銘柄

ハーモニクス安で新安値

1Q受注半減し下振れ警戒

週明け17日、ハーモニクス・ドライブ・システムズ(6324)がストップ安まで売られ、3週間ぶりに年初来安値を更新した。19年3月期第1四半期の受注高が前年同期比46・9%減の95億4600万円と急減。中国市場を中心とした小型産業用ロボットの在庫調整に伴い、高水準で推移してきた減速装置の需要が減退。産業用ロボット、半導体製造装置など主要用途全般に減少しており、受注残は高水準で業績に変更はないとしたが、収益下振れを警戒した売りがかさんだ。

住江織38%営業増益

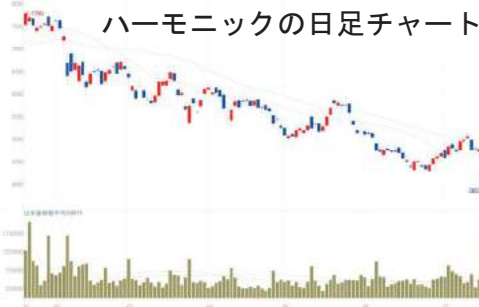
17日、住江織物(3501)が続伸。19年5月期の連結営業

績予想を発表、営業利益は31億円(同37・9%増)、純利益は19億円(同75・3%増)と大幅な増益を見込んだ。インテリア事業の再構築や為替換算の影響により減収を見込むが、利益面では引き続き好調な自動車内装需要が貢献する。

リボミック核酸医薬臨床

17日、リボミック(4591)がストップ高。日本経済新聞が「新しいバイオ医薬品の一種、核酸

医薬を手がける創薬スタートアップが開発を加速させる」と報じ、同社が核酸医薬「RBM007」の初期臨床試験を8月に米国で始めることを伝えたことが買い手掛かりになった。大型核酸医薬が米国で登場し、成功の連想もあり開発資金が集まりやすくなったことが背景。低迷していた核酸医薬が本格的に花開こうとしているとされており、早期実用化と収益貢献へ期待が高まった。



ハーモニックの日足チャート

タマホーム値上り率トップ

17日、タマホーム(1419)が大幅続伸、東証1部値上がり率トップに立った。19年5月期の連結業績で、営業利益53億円(前期比13・9%増)と前期に続いて2ケタ超の増益を見込み、年間配当金も45円(前

期30円)へ連続増配を予定したことが好感された。中期計画に沿って付加価値商品の拡大とシェアアップを図ることで収益力を強化、中計最終年度の21年5月期に営業利益120億円を目標に掲げた。

IDOM下振れ警戒続く

17日、IDOM(7599)が続急落。19年2月期1Qの連結決算が、営業利益3億7800万円(前年同期比69・5%減)と大幅減益で着地したことが引き続き嫌気された。新規出店費用が収益を圧迫、2Q計画の27億円(同

正直いいさんの株で大判小判

20日の東京市場は続落となりました。19日の米国株安と為替が112円台前半の円高に振れたことで、プラスに浮上する場面がありました。米中貿易競争の不安再燃などが、これまでドル高・円を考慮すれど調整の範囲内でしょう。3月期企業の第1四半期決算が本格化しますが、当欄ピ銘柄では浜松ホトニクス(6367)はダイキン(6367)は底堅く、シスメック(6965)や

主力銘柄の決算見極め

強く、押し目狙います。新興銘柄の損益を確定し、25日の先行して発表される主力銘柄の決算内容を見極めたいという銘柄を選別です。花咲翁



自動車株は上値追い

18日、トヨタ自動車(7203)をはじめ自動車株が上値を追った。米国株

市場でナスダックが最高値を更新したほか主要指数がそろって上昇、リスク選好ムードが強まるなか、パウエルFRB議長の上院議会証言を受けた日米金利差拡大の思惑で、113円台のまで進んだ円安が買い気を誘った。



SKジャパンの日足チャート

SKジャパン連続S高

今期上方修正を引き続き材料視

18日、エスケイジャパン(760)が28)が2日連続ストップ高。19年2月期の連結業績予想を修正、売上高を52億7000万円から56億5000万円(前期比4・9%増)へ、営業利益を2億円から2億7000万円(同17・7%減)へ、純利益を1億7000万円から2億3000万円へ、最終損益を800万円の黒字から6700万円の黒字(同1億7200万円の赤字)へ上方修正した。

ALBERTはAI需要

18日、ALBERT(3906)がストップ高。18年12月期の単体業績予想の修正を発表、売上高を12億円から13億5000万円(前期比54・8%増)へ、営業損益を2000万円の黒字から8000万円の黒字(前期1億6100万円の赤字)へ、最終損益を800万円の黒字から6700万円の黒字(同1億7200万円の赤字)へ上方修正した。

「忠犬もちしば」のルキヤクタターのさらなる増販も寄与。3月14日には890円まで急騰した経緯があることから値動きの軽さから目先の資金が流入した。

18日、ALBERT(3906)がストップ高。18年12月期の単体業績予想の修正を発表、売上高を12億円から13億5000万円(前期比54・8%増)へ、営業損益を2000万円の黒字から8000万円の黒字(前期1億6100万円の赤字)へ、最終損益を800万円の黒字から6700万円の黒字(同1億7200万円の赤字)へ上方修正した。

AI(人工知能)および機械学習技術を活用した「ビッグデータソリューションサービス」の需要が拡大していることを背景として主要プロジェクト

エクトにおける収益力が改善している。

サイバーS利益確定売り

18日、サイバーステップ(3810)が4日ぶり反落。19年5月期の連結業績予想を発表、売上高は80億円(前期比11・5%増)、営業利益は7億円(同12・4%増)、純利益は5億5000万円(同22・5%増)と大幅な増益を見込んだが利益確定売りに押された。複数タイトルの開発を計画するが現時点でリリース時期を確定することが困難なタイトルがあり、保守的な売上高を見込んだという。

大森屋 新製品

熱い支持を集めるノーベル製菓とのコラボ商品第3弾!

目にも鮮やかな「男梅混ぜご飯」参上!



新商品!

男梅混ぜご飯

おにぎりに最高!



おすすめポイント

- ① 濃厚な梅干し本来の旨さを楽しむ食べごたえ。
- ② 男梅ならではのガツンとしたしょっぱさ。
- ③ 梅らしい彩りで華やかな混ぜご飯が完成。



18日、リミックスポイント(3825)、マネックスグループ(8698)、GMOインターネット(9449)、SBIホールディングス(8473)など仮想通貨関連株が高い。17日の取引でビットコイン価格が一時12%高と急上昇、約1カ月ぶりに700ドルを回復したことで、関連銘柄に見直し買いが向かった。世界最大運用会社によるビットコインETF

仮想通貨関連が高い

ビットコイン急上昇で見直し

組成などの憶測が材料になっている模様

イナリサチはヒト由来がん

19日、イナリサチ(2176)がストップ高。韓国DNA、Link、日本エスエルシー(静岡県浜松市)とヒト由来がんを用いたPD-Xマウスモデルの開発と医薬品開発への有効性に関する論文を三社共同事業の発足させることを発表した。PD-Xはヒトのがんを用いることからヒトの生体内環境に近いモデルとして、がん研究には必須のモデルと考えられている。DNA、Link社と日本エスエルシー社が製作する同モデルに関する試験や

効性に

で、チャートの逆三尊)を形成しつつあるなど、当面の下値到達感や値頃感が買

市場開拓の支援を担当。同社は製薬企業を始め、ベンチャー企業、大学等研究機関と幅広く取引、共同研究を行っている。同モデルの有効利用と普及に大きな役割を担う。

半導体関連買い進む

19日、東京エレクトロン(8035)やアドバンテスト(6857)、SCR EENホールディングス(7735)など半導体関連が買い進まれた。オランダの半導体製造装置大手ASLM社が発表した第2四半期決算がアナリストの予想を上回る内容となったことが材料視され、日本の関連株にもポジティブな要因との評価になった。

◎株は底値買で大きく取るべし・門外不出の大伸流底値買成功法あり

◎日経平均に関係なく最近の底値買指示銘柄例(よくお調べください)(7月16日)

- 野村HD →目先600円台→当面700円台、中勢大局800~900円、押目買一貫(予告の今後の注目)
- 三菱UFJ →目先700円台→当面800円台→中勢900~1000円、押目買一貫(予告の今後に注目)
- ブリヂストン →目先5000円台→当面5500円台→中勢6000円、押目買一貫(予告の今後に注目)
- 楽天 →目先900円台→当面1000円台→中勢1300~1400円、押目買一貫(予告の今後に注目)
- 住友不動産 →目先3500円(達成) 当面4000円(達成) 大局4700~4800円目標(2500円前後買)
- 大日本住友薬 →目先1900円~2000円(達成) 当面2200~2300円(達成) 大局2800~3000円へ(1400~1500円買)
- 富士通 →目先680~700円(達成) 当面750~800円(接近) 大局850~900円目標(650円以下買)

◎当社の基本は大局倍化、当面5~6カ月50%高前後目標の投資の王道なり(迷える投資家は試見)

底値買銘柄は当社にお任せください・底値大幅高予想銘柄お知らせします(成果確認)(返信切手1000円要)

田舎の名医が目標なり(会員のみ知る) (実績40年) 金融商品取引業者 登録番号 東海財務局長(金商)第45号(一般社団法人)日本投資顧問業協会会員

大伸経済研究社

会費1ヶ年50万円、2ヶ年80万円(継続同額)(税込)
 (会費が高い少数の会員制なり)(広告参照)
 (1年後の成果に自信ありお試ください)
 (電話等による入会勧誘は一切致しません)

公表銘柄は一例であり全てではありません
 目標値は当社独自の分析による予想値です
 有価証券の運用には、価格変動リスク、株式発行者の信用リスク、流動性リスクがあります。運用の結果、元本を割り込み、損失を被ることがあります。リスクに関して詳しくは契約締結前の書面をご覧ください。

電話058-243-5690(午前8:30~11:00)
 〒501-3144 岐阜市芥見大般若2-25-2 [インターネットでの資料請求はここをクリック!](#)

燃料電池関連材料に注目

日本精線

エネルギーイノベーションJPに出展

（大阪市中央区）で8月28日～29日に開催される「エネルギーイノベーションジャパン2018」（主催：一般財団法人省エネルギーセンター、JTBコミュニケーションデザイン）に出展する。

同社の主な出展製品・技術はハイブリッド、水素分離膜、脱水素触媒ワイヤー。耐水素脆性ばね用ステンレス鋼線「ハイブリッド」は高圧水素環境下で使用される燃料電池自動車関連のばね材として、優れた耐水素脆化特性を有し、且つUS304並みのばね特性を併

持つ優れた材料。水素分離膜は燃料電池用をはじめ高純度水素ガスの製造、精製分野に適用可能なパラジウム合金圧延箔を使った水素分離膜モジュールで、特殊な独自の接合技術により超高純度の水素精製を可能としている。

製油所での水素製造装置の水素精製装置代替をはじめ、燃料電池自動車の開発で展開が注目されている水素ステーションでの水素製造装置や家庭用燃料電池の水素精製プロセス、また半導体産業で使われる超高純度水素ガス精製分野向けなどをターゲットにしている。

日PCサビス高で新値

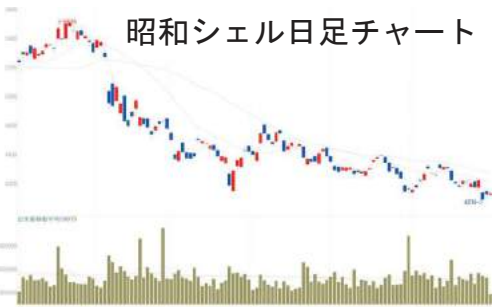
19日、日本PCサビス（6025）がストップ高まで買われ、年初来高値を更新した。18日の取引

終了後、オウケイウエイヴ（3808）との資本業務提携する旨を発表したことが材料視された。オウケイウエイヴの有するプロックチェーン技術・AIの知見を活用し、同社の展開するパソコン総合サービス事業の加速化を実現するための共同事業を展開するもので、同社はオウケイウエイヴに対し、普通株式13万株（発行済株式数に対する割合9・11%）と新株予約権を割り当てる。

企業レター

日本精線（5659）

はマイドームおおさか（大阪市中央区）で8月28日～29日に開催される「エネルギーイノベーションジャパン2018」（主催：一般財団法人省エネルギーセンター、JTBコミュニケーションデザイン）に出展する。



本日の石油元売り企業がイラン産原油の輸入停止に向けて調整に入ることが分かった」と報じたことが材料視された。「米

石油関連総じて高い

イラン原油停止へ調整との報道

19日、JXホールディング（5020）や出光興産（5000）（5000）、2）、コスモエネ（5021）ルギーホールディング（5021）など石油関連株が総じて高い。この日の日本経済新聞で「日

昭和シェル日足チャート

国がイランへの経済制裁の一環で同国産原油の輸入停止を求めたことを受け、日本の海運会社やメガバンクは取引停止の可能性があると元売りに通知した「ことを受けてのもので」「調達コストの上昇がガソリン価格に波及する恐れもある」と伝えている。

インスベック大型受注

19日、インスベック（6656）がストップ高。同社は18日の取引終了後、基

押し目買い

先週の東京市場は続伸となりました。週半ばには2万3000円を射程圏に入れる上昇局面がありましたが、週末に掛けて若干押し戻されました。日経平均は2万3000円でダブルトップを形成した形になっています。そこに接近した日柄が本年1月高値の期日向かいであるために、戻り売りが出てきました。

5日の安値から一目均衡表・時間論9日基本数値日にあたる18日まで値幅1487円もの上昇となり、2月14日から27日の10日間の上昇値幅とほぼ同等となったことから、押し目形成は当然のことだと考えます。

先週13日現在の信用評価損益率は5週ぶりに改善。裁定取引に伴う現物株の買い残は4週連続で減少し1兆5787億円と4月6日以来3カ月超ぶりの低水準となり、需給が改善してきました。出遅れ優良株の押し目買いの急所でしょう。

日々勇太郎



転ばぬ先のテクニカル

英和 (9857)

ワンストップ提案営業を推進

21年3月期売上高375億円目指す

社会インフラの再整備を中心とした内需の拡大と、生産性向上に

生産性向上に貢献

英和(9857)は計測・制御機器に強みを持つ技術専門商社で組立・製造子会社を擁し、高い技術力が評価され、大手企業を中心に数多くの固定顧客を有している。独立系であることからあらゆる製品を提案することが可能で、さまざまな分野で同社のビジネスチャンスが拡大している。

今後伸長が見込まれるIoTを始めとする製造現場での生産性向上への取組に貢献すべく、システム・エンジニアリングやフィールドサービス対応力の強化によるワンストップ提案営業を推進、「環境・安心・安全・品質」をキーワードとした環境配慮型商品や保安・メンテナンス機器の拡販、顧客ニーズに対応する新商材の発掘などに全国の営業拠点網を

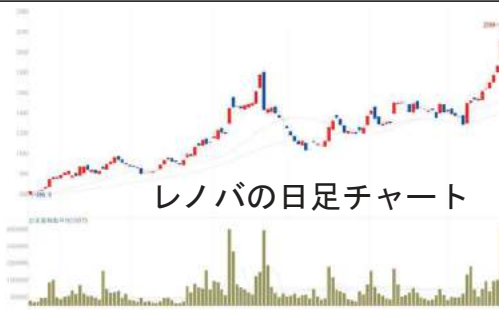
特選銘柄

活用しながら積極的に取組んでいる。

に向けた取組みを足掛かりに民間企業の設備投資意欲の向上が見込まれるなかで、今19年3月期は売上高350億円(前期比1.8%増)、営業利益11億円(同3.4%増)を見込んでいる。これに加えて、システム・エンジニアリング対応力やフィールドサービス対応力といったソフト面の強化と輸入商材の拡大、新規特定市場の開拓による持続的安定成長を推進し、3年後の2021年3月期に売上高375億円を目標としている。



英和の日足チャート



レノバの日足チャート

週末20日、レノバ(9519)が続騰、一時ストップ高まで買われ、連日で年初来高値を更新した。日本経済新聞が「日本企業の間で事業に使う電力を全て再生可能エネルギーで賄おうとする動きが広がってきた」と報じたことを受け、大規模太陽光発電、バイオマス発電など再生可能エネルギー発電

レノバS高で新値追い

企業再生エネ切替え広がる

所を開発、運営する同社が関心を集めた。富士通(6702)や丸井グループ(8252)など10社が10〜30年かけて段階

的に再生エネに切り替える。大口需要家である企業の利用拡大は大手電力の送配電網への投資を促し、遅れている再生エネ普及に弾みがつく可能性があるとされており、今後の本格的な事業拡大につながる。と期待された。

ゲンキー期待値下回る

20日、Genkey(9267)が急反落。19年6月期の連結営業利益は50億円(前期比21.1%増)と大幅増益を予想したが、高寄りが付いた後は利益確定売りがかさねだ。生鮮食品売場を標準レイアウトとして出店、既存店舗も順次改装するなど競合ドラッグストアとの差別化を図ることで収益力を強化。

エラン2Q上方修正

20日、エラン(6099)が大幅高で最高値を更新。18年12月期2Q累計の連結業績予想を修正、営業利益を4億9000万円から6億3000万円(前年同期比44.8%増)へ上方修正した。CS(ケア・サポート)セットを導入した施設での売上高が当初計画を上回り堅調に推移している。

今週の動意銘柄

潮流

恐れるな2万3000円の壁

円安進めば銀行株は強い上昇サイクル

marKet / bAnk



今後の日本株式市場の行方を見てみる。日経平均は7月5日に付けた2万1462円を底に

上昇トレンドが継続されている。一方、小型株中心のマザーズ指数やジャスダック指数、東証2部指数は7月から平行線で持ち合い相場が続いている。また、米国株式市場ではハイテク銘柄の多いナスダック指数が過去最高値を連日更新している。ダウ平均は7月から上昇トレンドが継続中。日本株式市場は大型株の中でもソフトバンクやファーストリテイリングといった指数採用銘柄に買いが入り日経平均を押し上げている。一方、小型株全体は様子眺めといった状況だ。ただ、新興市場の銘柄でも長期間下落トレンドが続いてきた銘柄が上昇に転じ始めた動きもある。また、為替に目を向けると、ドル円相場は円安トレンドが続いており、3年間のトライアングルからさらに円安に向かうことは時間の問題となっている。上に放れれば数カ月以内に115円から118円まで円安が進むことになる。円安が進めば長期間低迷を続けていた銀行株が強い上昇サイクルに入るだろう。既にその動きが出始めていることは見逃せない。

日経平均のPERは現在13.4倍と割安だ。米ダウ平均のPERは16.6倍である。米ダウ

平均並みに買われると日経平均は2万8200円になる。現在、新興市場は方向感が出ていないが、大型株が上昇した後は小型株が上昇することはよくある動きだ。新興市場の銘柄が動けば大きな利益が狙いやすくなる。多くの投資家は2万3000円の天井を気にしている。2万3000円での過去の出来高は多く、まずはこの壁を突破できるかどうかが一番の注目点となる。

約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

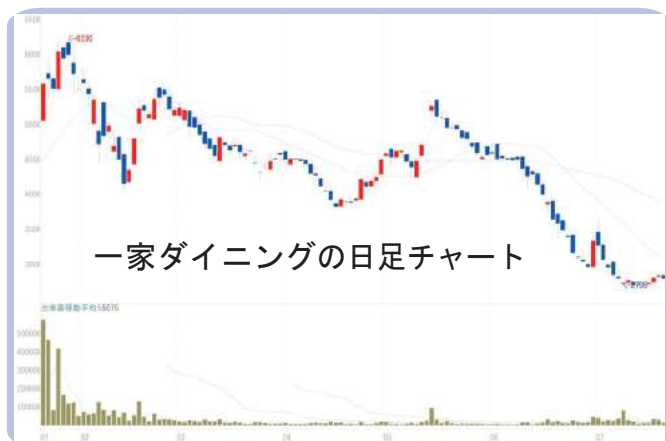


岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて

米国や欧州の株式市場の上昇の動きと円安傾向から捉えれば、今回はこの大きな節目を抜けることが予想される。トランプ大統領は11月の中間選挙までに中国を始めとした高関税の締め付けを緩和することが考えられる。米国経済は絶好調で株価はさらに上昇が続くだろう。ヘッジファンドが225先物など日本株価指数先物に買い戻しを入れ、現物株にもまとまった買いを継続して入れてくれば、日本株は本格的な強い上昇が続くだろう。2万3000円の壁を恐れることは無い。

潮流銘柄はファンケル(4921)、一家ダイニングプロジェクト(9266)、三井住友フィナンシャルグループ(8316)。



ヘッジファンド買い戻しへ

チャートから読む 騰落銘柄

スタートトゥデイ (3092)



前澤 友作社長によるプロ野球球団保有意欲発言も知名度上昇に貢献し、7月17日に4875円の上場来高値を更新。上値のフシもなく、アナリストの高評価から5000円台を目指す動きが期待される。

村田製作所 (6981)



5月上旬から2カ月半にわたり着実に下値を切り上げ、6月には週足が再び陽転。適度な押し目を入れての上昇で過熱感はなく、大勢上昇トレンドのなか、円安を追い風に最高値2万5610円奪回も。

ドール・日レス (3087)



1月24日の2672円高値から長期下落基調で、7月17日には1927円まで値を崩す。第1四半期では人件費などのコスト増で日レスが苦戦しており、業績不安から2016年安値1811円も視野。

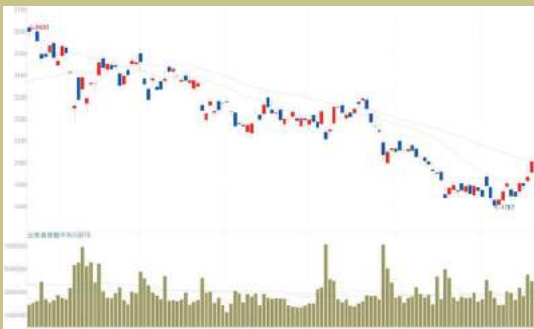
三菱電機 (6503)



押し買いに信用買い残の整理が進まず、高値期日通過も上値は重い。25日線に上値を抑えられるかたちで下値模索が続き、1400円台を割り込むと、1200円近辺まで下値抵抗ラインはない。

今週の

活躍期待銘柄



ミネベアミツミ (6479)

今3月期通期は上ブレ期待

ミネベアミツミ(6479)は5日に付けた年初来安値1797円を底に出直りに転じてきた。2000円台抜けから5月22日に付けた2310円程度への戻りに期待したい。主力製品のボールベアリングは、自動車向けでの省エネや安全装置用のニーズ拡大、ファンモーター向け需要増などにより好調を継続。これに加えて液晶用バックライトでは、ハイエンドスマホ向けの超薄型導光板などの高付加価値製品の拡大が期待されており、国際会計基準となる19年3月期は通期連結営業利益で830億円(前期実績791億6200万円)と増益を見込んでいる。前提として、トの1ドル105円は現状の円安水準から上ブレ要因になるうえ、ゲーム機器関連製品や通信モジュールなどの車載製品の拡大を考慮しても、大を考慮しても、会社計画は控えめ(と)

円安進み車載製品など拡大



島精機製作所 (6222)

連続最高業績も最低ライン

島精機製作所(6222)は米中通商問題の影響が警戒され、売り込まれてきたが、3日に付けた年初来安値5070円を当面の底値に出直りの動きを強めている。横編機の世界最大手メーカーで、コンピュータ無縫製ニット編機「ホールガーメント」を活用したトータルファッションシステムで需要を開拓。19年3月期も連結売上高760億円(前期比5・8%増)、営業利益160億円(同7・3%増)と最高業績更新を見込む。しかも、人件費上昇と人手不足を背景にコンピュータ横編み機へのニーズはさらに強まり、スポーツやカジュアルシューズなどへの活用も進んでいることから、会社計画はあくまで最低ライン。ファーストリテイリング(9983)との戦略提携による新商品と量産プロセス開発への期待も強い。(き)

ファストリとの戦略提携に期待

※チャートは日足

反落恐れる必要ナシ

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

7月第3週の東京市場は18日終値の時点で日経平均で4日続伸となり、SQ明けから戻りを鮮明にしました。

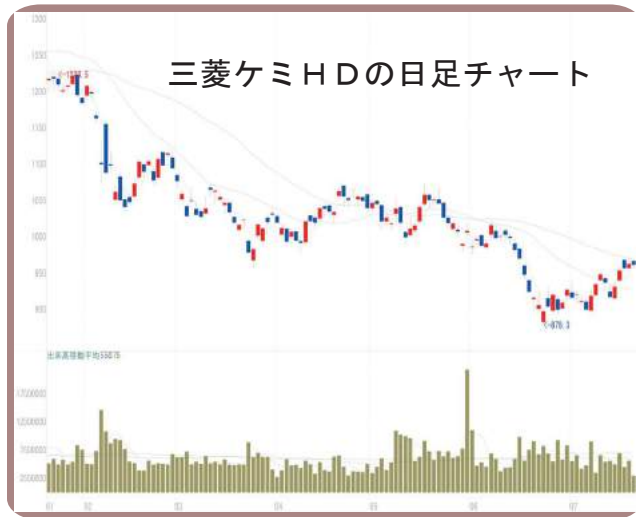
その後、この欄を執筆している19日に0円を前にして戻り待ちの売りや高値警戒感から伸び悩みました。しかし、個別では大きく値を消したハイテク系などが値を保ち、内需系も利益確定売りなどで小反落するものも見られましたが、全体的に上値を窺う態勢は維持しています。この4連騰で上げ始めてから6・7%戻したことになる

三菱ケミヤテックF 継続注目

見込めることなどを考えると、仮に2万3000円をクリアしたからといって大きく反落する理由が見当たりません。何しろ、海外の投資家はじめ国内の投資家もまだ積極的に買っている状況に至っており、様子見を決め込んでいる状態です。こういう局面は反落するよりも更に上値を追う可能性の方が高く、反落を恐る必要はないとみて新規買いや持続姿勢を貫くことです。かねてより推奨しています三菱ケミカルホールディングス(4188)は50日移動平均線近辺まで戻しましたが、下落場面があれば好買い場になるものとみています。大日本住友製薬(4506)は揉み合いゾーンから上値を迫いました。そろそろ仕上げが近づいたとも思われますので、ここからは売りが対処。一方、武田薬品工業(4502)は戻す動きが続いていますので引き続き注目です。

円安傾向が維持されていることや4月の6月の企業業績の堅調さを

ドが強いようですが、まもなく大きく上つ放れるタイミングが近いとみています。J. フロントリテイリング(3086)など百貨店がしっかりしています。アイフル(8515)、野村ホールディングス(8604)の金融系もトレンドは悪くありません。日本板硝子(5202)、双日(2768)もいい展開になつており、引き続き注目です。値ガサでは堀場製作所(6806)の戻りをみています。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の 株街往来

～地方都市の置き去り感～

が機能しているだけで救われている。今回の西日本豪雨ではネットの掲示板などで話題となったのが、TV局の対応。多くの方が命の危機に直面しているというのに、何も無いような如くバラエティー番組などを流していることに憤りを感じるという書き込みだ。

株式市場の世界でも取引所が東証に集約されたり、様々な面で首都圏への一極集中が進んでおり、番組も東京キー局製作が増えて地域の特徴ある番組が少なくなっており、首都圏以外の話題が少なくなつた感は否めない。

今回のような災害時ではNHKや民放でも地元製作のニュース番組が参考になる。やはり、地方分権が進まないなかで置き去りなる地方住民の不安が増大しているなかでは、企業や中央政府を問わず、常日頃から地方にも目を向けた取り組みが必要と感じた。

暑い夏で体力の消耗も早い。早期の復興を願うばかりだ。

大阪北
部地震の後に西日本豪雨が
発生し、この数週間には自然
災害の恐ろしさを痛感した。
筆者の自宅周辺では地震で
屋根の崩壊などの被害を受
けた家が多く、その後の豪
雨が被害に追い打ちをかけ
ているが、広島などの中国
地方では、地域自体が壊滅
的な被害を受けているだけ
に、自宅が住める状況で町



New product

イトアンド

新商品とリニューアル品 「大阪王将」常温調味料シリーズ8月末発売

<リニューアル品>

「大阪王将 炒飯の素」5
1.6g [(液体調味料 2.4
g、具材 1.8g) × 2袋]
ねぎ油とごま油の香り

にこだわり、美味しく仕上げており、甘味料や香料、化学調味料、着色料は不使用。

◇ ◇ ◇

加えて同社はトマトラーメン専門店「太陽のトマト麺」において、チーズに特化した店舗にブラッシュアップし、店名も新たに「太陽のトマト麺 with チーズ 新宿ミロード店」として、7月13日にリニューアルオープンした。またリニューアルにあわせて、ラクレットチーズ等を使用した新宿ミロード店限定のプレミアムチーズラーメン3種類を販売している。

住所：東京都新宿区西新宿1-1-3 小田急新宿ミロード7F



太陽のトマト麺 with チーズ 新宿ミロード店

イトアンド(2882)は中華専門店「大阪王将」ブランドの常温調味料シリーズの新商品2品、リニューアル品1品を8月末から全国で販売する。

<新商品>

「大阪王将 炎の旨辛餃子鍋つゆ」(ストレータイプ750g)

唐辛子や山椒のシ

ビれる辛さと肉や野菜、魚介の旨みがクセになる鍋つゆ。

「大阪王将 生姜香る餃子鍋つゆ」(ストレータイプ750g)

濃厚な鶏白湯と焦がしニンニク油のコクがクセになる鍋つゆ。大阪王将の店舗でも人気の餃子鍋が家庭でも楽しめる。



大阪王将 炎の旨辛餃子鍋つゆ

日経225先物日足チャート



敏腕先物ディーラー
ハチロクの裏話

三尊天井に注意

一旦は調整入り易い状況

I MFによると米中貿易摩擦により世界経済をGDPベースで0・5%押し下げると報告している。日本に関しては6%のマイナスと発表しているが、その発表にも関わらず先週の日経平均は戻り

歩調を強め、18日には2万2949円32銭を付けた。7月5日の安値2万1462円95銭から約1500円戻したことになる。ただ、これだけ上昇しても騰落レシオは82%で、過熱感はない。買われる銘柄が限られ、指数だけ上昇している証左である。同じ業種で割高銘柄を売って割安銘柄を買う「ロングショート」を組んでいるディーラーが全く稼げなくなったと嘆いていたが、「割高」とされ

る銘柄が更に買われる相場のようである。また、出来高が少ない状態での戻りであったため急落にも注意が必要である。この戻り過程で6月の高値を抜けてこない

（ハチロク）

「三尊天井」となる可能性が高い。テクニカル的にもストキヤステイクスは82%と「買われすぎ」の状態にあり、一旦は調整が入り易い状況にはある。下値のメドは今の2万2381円、転換線の2万2300円処、この水準には25日移動平均線や75日移動平均線があり、強い支持ラインとなる。また、7月12日（2万2233円52銭）から13日（2万2316円52銭）に窓が開いており、これを埋めに行くと十分考えられる。金曜日には人民元安により、一時相場が乱高下する場面もあつたが、今週も海外の材料で大きく動く可能性は高い。今週は2万2000円から2万3000円の範囲で、上値重たくないであろう（ハチロク）

今週のスケジュール

- ・ 21日 G20財務大臣・中央銀行総裁会議（～22日）
- ・ 23日 2020年東京五輪に向け政府主導の「テレワーク・デイズ」実施（～27日）
米6月中古住宅販売件数(23:00)
- ・ 25日 独7月Ifo景況感指数(17:00)
米6月新築住宅販売件数(23:00)
- ・ 26日 6月企業向けサービス価格指数(8:50)
ECB定例理事会
(ドラギ総裁会見)
- ・ 27日 米4-6月期GDP(21:30)

編集後記

「命にかかわる暑さです。不要不急の外出は避けましょう」何度となくニュースで警告を聞いた。太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しが強まり、上空で2つの高気圧が重なる「ダブル高気圧」の影響で日本列島はかつて経験したことのない猛暑日が続いており、連日で2000人を超える人が救急搬送され、亡くなる方も少なくない。エアコンへの引き合いは急増ながら、外出が控えられれば、消費全般にはマイナスに働く。株価は押し目が入ったが、暑さにも小休止が欲しいところだ。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。